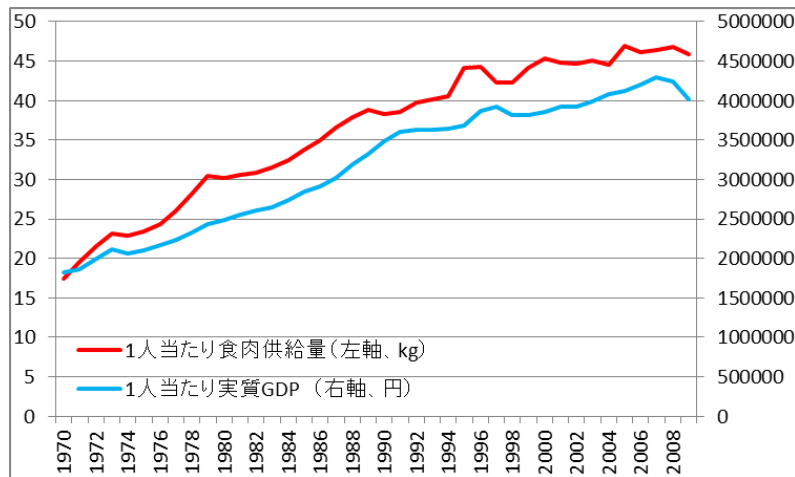


高齢者は意外と肉が好き？

2012/08/30

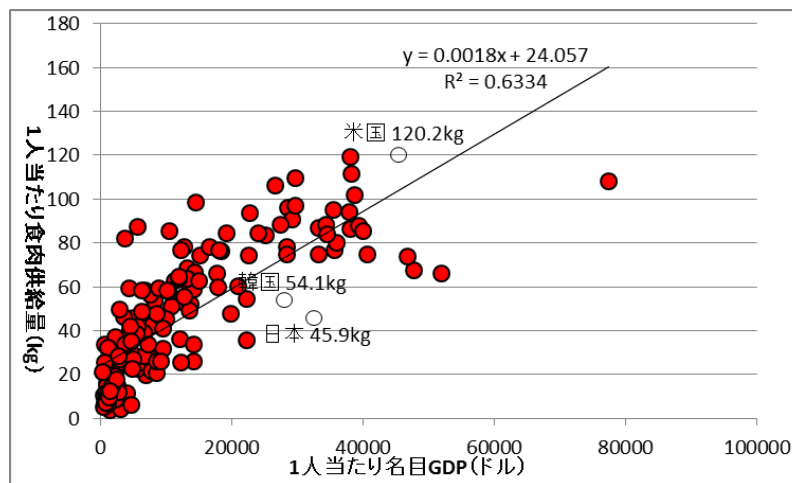
夏です。お盆です。ということで筆者も夏休みを利用して実家に帰省しました。筆者は既に40がらみの立派なおジサンなのですが、親にとって子供はいつまでも子供、大変暖かく迎えてくれました。毎日家族で食卓を囲み、両親の変わらぬ食欲を見て、「ああ、まだまだ健康だな」とほっとすると同時に、72歳の父親が美味しそうにトンカツを頬張るのを見ると、「本当に高齢者は肉を食べなくなるのだろうか」という疑問が生じてきました。以下、様々な角度から日本人の食肉需要の展望を考えてみました。

図表 1 1人当たり食肉供給量(≒需要量)と1人当たり実質GDPの推移(資料:FAO、IMF)



図表 1 は 1970~2009 年の日本の 1 人当たり食肉供給量(≒需要量)と 1 人当たり実質 GDP の推移を示したのですが、両指標の相関関係の強さに驚かされます。もうひとつ驚くべきことは、日本人の国民年齢の中央値は 2000 年に 41.3 歳(国連中位推計)と 40 代に突入しているのですが、その後も 1 人当たり食肉供給量(≒需要量)が緩やかな増加傾向を維持している点です。このグラフを見る限り、1 人当たりの食肉需要量は年齢(高齢化)よりも所得の影響を強く受けているように考えられます。

図表 2 2009 年の 1 人当たり名目 GDP¹と 1 人当たり食肉供給量の関係(資料:FAO、IMF)



¹ 購買力平価ベース

次に図表 2 では国際的な視点から所得と食肉需要の関係を知るべく、2009 年現在の世界各国の所得(1 人当たり名目 GDP)と 1 人当たり食肉供給量(≒需要量)の関係を調べてみました。するとやはりここでも所得と食肉需要の間には密接な関係があることが分かりました。また世界基準(図表中の右上がり直線)からみれば、日本の所得水準であれば 1 人当たり食肉供給量は 80kg くらいあって然るべきで、現在の水準(45.9kg)からは大幅な増加余地がありそうです²。

図表 3 2011 年の世帯主年齢階級別畜産物等に対する 1 人当たり年平均支出 (資料:総務省)

	～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳～	
	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量
消費支出	861,679	—	874,893	—	1,005,269	—	1,190,166	—	1,253,628	—	1,172,015	—
食料	188,107	—	207,890	—	238,814	—	282,019	—	348,831	—	339,934	—
1.魚介類	8,306	—	10,822	—	14,795	—	24,503	—	37,784	—	40,759	—
2.牛肉	2,421	1,350	3,078	1,500	4,297	2,009	6,457	2,420	8,501	2,691	7,868	2,339
3.豚肉	5,664	5,078	6,317	5,381	7,979	6,516	8,632	6,531	9,101	6,638	7,943	5,556
4.鶏肉	3,512	4,363	3,645	4,199	4,307	4,783	4,399	4,628	4,439	4,574	3,878	3,894
5.合いびき肉	695	741	722	740	735	724	676	620	615	563	447	389
6.他の生鮮肉	377	307	417	336	563	440	777	538	882	645	753	569
7.ハム	842	554	1,027	590	1,288	733	1,845	1,026	2,646	1,387	2,341	1,184
8.ソーセージ	1,872	1,525	2,244	1,757	2,510	1,935	2,522	1,924	2,322	1,746	1,878	1,356
9.ベーコン	578	363	611	384	768	475	889	537	887	543	768	466
10.他の加工肉	379	—	458	—	562	—	668	—	793	—	742	—
11.牛乳	3,361	21	3,596	21	4,058	23	4,557	24	6,071	30	6,889	33
12.粉ミルク	1,312	715	663	306	208	106	98	62	100	61	50	32
13.ヨーグルト	1,793	—	1,822	—	2,286	—	2,809	—	3,504	—	3,735	—
14.バター	246	144	247	144	269	156	289	168	317	178	278	161
15.チーズ	1,200	842	1,357	910	1,459	961	1,340	846	1,351	836	1,251	769
16.他の乳製品	195	—	182	—	203	—	183	—	189	—	166	—
17.卵	1,861	7,170	1,969	7,468	2,482	9,011	2,945	10,540	3,288	11,812	3,268	11,061
18.カツレツ	212	—	270	—	419	—	577	—	602	—	647	—
19.天ぷら・フライ	1,714	—	2,158	—	2,600	—	3,145	—	3,312	—	3,413	—
20.しゅうまい	152	—	167	—	249	—	327	—	392	—	418	—
21.ぎょうざ	332	—	478	—	603	—	711	—	891	—	866	—
22.やきとり	323	—	417	—	559	—	691	—	719	—	689	—
23.ハンバーグ	182	—	252	—	347	—	327	—	330	—	369	—
24.冷凍調理食品	1,415	—	1,833	—	2,508	—	2,379	—	1,343	—	993	—
25.外食	48,954	—	52,347	—	53,721	—	48,439	—	54,041	—	41,024	—
<中華食>	818	—	1,206	—	1,320	—	1,366	—	1,892	—	1,185	—
<洋食>	6,137	—	6,309	—	6,027	—	5,976	—	5,323	—	3,218	—
<ハンバーガー>	3,219	—	2,850	—	2,265	—	1,103	—	652	—	357	—
肉類(2-10合計)	16,340	14,281	18,519	14,887	23,008	17,615	26,865	18,225	30,186	18,787	26,619	15,753
乳卵類(11-17合計)	9,967	—	9,835	—	10,966	—	12,222	—	14,821	—	15,638	—
肉類惣菜(18-24合計)	4,330	—	5,575	—	7,286	—	8,156	—	7,589	—	7,393	—
外食(25)	48,954	—	52,347	—	53,721	—	48,439	—	54,041	—	41,024	—
合計	79,592	—	86,275	—	94,981	—	95,682	—	106,637	—	90,674	—

<注意>支出金額の単位は円、購入数量の単位は牛乳はℓ、それ以外はg

次に年齢と食肉需要の関係を調べてみましょう。図表 3 は 2011 年家計調査における世帯主年齢階級の畜産物支出金額・購入数量をそれぞれ 1 人当たりりに換算したものです。内容を分かりやすくするため、品目ごとに支出金額が最も高い年齢階級は黄色、購入数量が最も多い年齢階級はピンクで塗り分けてみました。すると世帯主が 60-69 歳の階級が肉類に対する支出金額・購入数量とも最も多い³⁴という結果になりました。この階級は可処分所得が多いため、肉類に対する支出も多いと考えられ、この結果は先に図表 1・2 で示した結論(所得大=食肉需要大)とも整合的です。

以上の考察をまとめると、食肉需要を左右する最大の要因は所得ということになります⁵。低成長とさ

² 食の文化・歴史的背景を考えれば 80kg まででは増加しないかも知れませんが、仮に 60kg まで増加すればそれだけで日本の食肉需要は約 30%増加します。

³ 世帯主が 60-69 歳の世帯ということは、遊びに来た孫のために祖父母が肉類を購入しているという可能性も排除できません。しかし、同様の現象は他の年齢階級でも考えられることであり(例えば遊びに来た親族や友人に肉類をご馳走する)、このことをもって統計の信頼性が否定されるべきではないと考えます。

⁴ 60-69 歳の階級は家庭で食事する回数が多いため食肉需要が多いとの指摘もありますが、この階級は外食支出でも突出しています。より厳密な比較を行うためには、小遣い(現役世代の昼食代はこの中に含まれている可能性が高い)の用途を知る必要があります。

⁵ 他にも、①肉類の相対的な価格の安さ、②肉類の相対的な調理のしやすさ、などが食肉需

れる日本経済ですが、それでも実質 GDP は年 1%程度増加しており、従って今後も緩やかな所得増加に伴い食肉需要は増加するかもしれません。そして図表 2 を見る限り、日本人にはまだまだ食肉需要を増やす余地があるようです。また図表 3 によれば、相対的に所得の高い日本の高齢者は我々が思っている程には食肉需要を減らさないと思われます。この「高齢者は意外と肉が好き」という我々の予想を裏切る現実の背後には、面白いビジネスチャンスが潜んでいるかも知れません。

以上

担当	シニア・アナリスト 榎本 裕洋	TEL 03 - 3282 - 7582 E-mail: Enomoto-Y@marubeni.com
住所	〒100-8088 東京都千代田区大手町 1 丁目 4 番 2 号 丸紅ビルディング 12 階 経済研究所	
WEB	http://www.marubeni.co.jp/research/index.html	

(注記)

・本稿に掲載されている情報および判断は、丸紅経済研究所により作成されたものです。丸紅経済研究所は、見解または情報の変更の際して、それを読者に通知する義務を負わないものとします。

・本稿は公開情報に基づいて作成されています。その情報の正確性あるいは完全性について何ら表明するものではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。

要増加の理由として考えられます。